

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会
北海道障がい者就労支援センター

平成23年度就労支援業務事業評価書

(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

平成24年3月

指定法人事業評価委員会

■ 評価の基本的な考え方

指定法人事業評価委員会は、北海道障がい者及び障がい児の権利擁護並びに障がい者及び障がい児が暮らしやすい地域づくりの推進に関する条例(平成21年北海道条例第50号)第31条第8項の規定に基づき、社会福祉法人 北海道社会福祉協議会(北海道障がい者就労支援センター)の平成22年度における障がい者就労支援業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、北海道が示した、指定法人要求水準書に定めた事業ごとに、その実績を記載した平成22年度就労支援業務事業報告書及び法人からの聴取を基に評価委員の全体協議により「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

1 項目別評価

指定法人要求水準書に掲げる事業ごとに、平成22年度事業計画の達成状況について、4段階により評価する。

A: 計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。

B: 計画に基づき適正に実施されている。

C: 計画に対し、やや不十分な内容である。

D: 計画に基づき実施されておらず、重大な改善事項がある。

※C及びD評価の場合は、指摘及び改善事項等について、意見を付すものとする。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえて、平成22年度における事業実績の全体について、上記により4段階評価する。

■ 指定法人事業評価委員会委員

分野	所属・役職	氏名	備考
学識者	北翔大学人間福祉学部 准教授	梶 晴 美	委員長
福祉 ・ 企業	社会福祉法人ひかり福祉会 ひかり工房 所長	高 井 賢 二	委員
	株式会社 特殊衣料 代表取締役社長	池 田 啓 子	委員
	中小企業診断士	金 子 邦 夫	委員

■ 指定法人事業評価委員会開催

開催日時 平成24年3月13日(火) 17:00~19:00

開催場所 道庁5階 共用会議室

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
全 体 評 価			
<p>授産事業所における収益力の向上等を図るため、新・北海道働く障がい者応援プラン(以下「新・応援プラン」という。)に基づき、授産事業の経営力向上や受注拡大に向けた支援の取組を行う。</p>	<p>授産事業所のニーズを踏まえるとともに関係機関との連携を図りながら、授産事業所の経営力向上や受注拡大等に向けた取組を実施</p>	B	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p>
I 工賃向上計画の策定・推進事業			
<p>新・応援プランに基づく「工賃向上計画」策定事業所等に対し、専門家等を派遣し、経営相談・技術指導等を実施。</p> <p>■ 個別経営相談 新・応援プランにおける平成23年度の達成目標である、対象事業所の60%以上の計画策定を目指し、経営の専門家である中小企業診断士による「工賃向上計画」に関する個別経営相談を実施することにより、授産事業所における計画策定の促進及び計画の適切な推進を図る。</p> <p>【要求水準】 ★ 授産事業所に配慮した実施方法(地域・時期等) ★ 経営等に関し十分な知識を有するコンサルタントの選任 ★ 新・応援プランにおける平成23年度達成目標である対象事業所の60%以上の計画策定を目指した効果的な取組である。</p>	<p>1 道内の生活圏域毎に個別経営相談会を実施するとともに、40ヶ所の授産事業所などにコンサルタントを派遣する。</p> <p>① 個別経営相談 ・ 実施 1ヶ所(札幌)平成23年7月14日、15日 ・ 内容 コンサルタントによる指導・助言 ・ 相談件数 6件</p> <p>② 派遣相談 ・ 実施 11ヶ所(7月～12月) ・ 内容 コンサルタント等による指導・助言</p> <p>③ 「工賃向上計画策定マニュアル」作成 11月発行 600部</p> <p>2 経営コンサルタントの確保 <small>上員10名、中員10名、下員10名、合計30名の中から、10名以上(1名)の他、専門企業級職員(2名)を選任</small></p>	B	<p>※計画に基づき、適正に実施されている。</p> <p>相談実施件数が必ずしも十分とは言えないが、工賃向上計画策定マニュアルを作成するなど授産事業所における計画作成を促進する取組として評価できる。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
<p>■ 経営・技術指導 企業経営に関する基礎知識や製造技術等の専門技術等に関する講習等の実施により、授産事業所における企業経営的ノウハウの導入及び職員の資質の向上を図る。</p> <p>【要求水準】 ★ 授産事業所のニーズを踏まえた内容設定 ★ 企業経営的ノウハウの導入、職員の資質向上(営業力向上等)に向けた効果的な取組</p>	<p>1 授産施設・作業所経営セミナーの実施</p> <p>① とき:平成23年12月8日 ② ところ:札幌市 ACU ③ 参加数:42名 ④ 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義「マッチング成立事例を通して事業所経営を考える」 講師:吉原 亘 (株)感動いちば 代表取締役専務) ・ 講義「マッチングコーディネーターからの提言」 講師:大泉 浩一(マッチングコーディネーター) ・ 講義「施設・事業所の経営相談に携わって」 講師:笹 洋彰(中小企業診断士) ・ 講義「障がい者の雇用を目指す企業の挑戦」 講師:箕輪 優子(横河電機株式会社 CSR部環境・社会貢献課) ・ 講義「障がい者の就労支援を進めるための実践とは」 講師:大場 俊孝(株)大場製作所代表取締役/NPO法人 栗原市障害者就労支援センター 理事長) <p>2 障がい者の就労支援・製品制作技術研修会 商品デザインや新たな商品作りのための技術、商品販売に必要なマナーを実践的に学んだ。</p> <p>① とき:平成23年9月20日 ② ところ:札幌市 かでる2・7 ③ 参加数:51名 ④ 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <コース1> 参加者 14名 ・ 実技「ビジネスマナー基礎講座」 講師:川村 由美(キャリアコンサルタントビジネスコーチ) <コース2> 参加者 31名 ・ 講義「商品の良さを伝えるためのデザイン」 講師:福田 大年 (札幌市立大学デザイン学部 講師) ・ ワークショップ「パッケージデザインワークショップ」 講師:福田 大年 <コース3> 参加者 6名 ・ 実技「布フェルトでストールをつくる」 講師:山田 明子 (札幌芸術の森工芸課工芸係 染・織専任職) 	<p>A</p>	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>セミナー等のテーマや講師の選定などにおいて工夫がみられるとともに産・学・福連携が実現されており、授産事業の今後の発展が期待される取組として高く評価できる。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
II 授産事業所間の連携・共同化			
<p>■ 授産事業所間連携・共同化 道内各地域において、授産事業所による事業の連携・共同化に向けたアドバイス等を行う。</p> <p>【要求水準】 ★ 14支庁地域において実施するもの。 ★ 十分な知識を有するアドバイザーの選任 ★ 授産事業所のニーズを踏まえた実施内容</p>	<p>1 実態の把握</p> <p>① 販路開拓事業地域スタッフによる訪問・聴き取り調査等により授産事業所等の事業内容・商品等について、実態の把握を行った。</p> <p>② 把握した実態をもとにマッチング事業コーディネーター(中小企業診断士)によるアドバイス等助言及び支援共同化の可能性のある授産事業所について検討を行った。</p>	<p>C</p>	<p>※計画に対し、やや不十分な内容である。</p> <p>現状では、複数授産事業所による共同化は難しい面もあるが、本事業による実績がないということは取組が不十分と言える。好事例を紹介するなどの取組も必要である。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
Ⅲ マッチングサポート事業			
<p>授産事業所の製品・サービスの受注拡大を図るため、授産事業所と企業等とのビジネスマッチングに関するサポートを行う。</p> <p>■ マッチング事業〔共同受注システム〕 授産事業所の製品やサービスの販路の確保・拡大を図るため、企業等が発注する仕事と授産事業所のインターネット上のマッチングの場を設けるとともに、専門コーディネーターによる受発注のコーディネートを行うほか、複数事業所による企業の発注ニーズに対する作業量及び作業工程の分担受注等の調整を行う。</p> <p>・共同受注システムの運営 ・専門コーディネーターの配置 ・授産製品、サービスのPR ・事業の周知</p> <p>【要求水準】 ★ 経営、マーケティング等に関し、十分な知識等を有するコーディネーターの配置 ★ コーディネーター等による積極的な新規企業の開拓 ★ 利用者の利便性を考慮するとともに、アクセス数増が期待できる魅力あるホームページ(共同受注システム)の構築・運営 ★ 販路開拓推進事業との緊密な連携 ★ 授産事業所の連携・共同化に向けた実現性ある取組 ★ 共同受注システムへの授産事業所の登録拡大に向けた効果的な取組 ★ マッチング事業及び授産事業所の製品・サービスの認知度向上が期待できる効果的かつ効率的な事業のPR方法</p>	<p><共同受注システム></p> <p>1 ナイスハートネット北海道の運営</p> <p>① 登録状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本情報登録:636施設／登録対象:970施設(65%) (H23.12末現在) <p>② ホームページの改良</p> <p>③ 取組実績のホームページでの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> マッチング実績内容の随時紹介 <p><専門コーディネーター></p> <p>1 専門コーディネーターの配置及び活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> マッチング事業(H20.10～現在)コーディネーターで実績のある中小企業診断士(大泉浩一氏)を委嘱 販路開拓事業地域スタッフの研修やコーディネーターの指導により全道域で成約 <p>2 活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 授産事業所と企業とのマッチングコーディネート マッチングシステムの紹介(企業へ) 受注に当たっての、授産事業所へのアドバイス 製品開発・改良へのアドバイス、専門家の紹介 <p>3 マッチング実績</p> <p>商談成立 248件 (平成20年10月～平成23年12月末現在)</p> <p><授産製品・サービスのPR></p> <p>1 農産物加工品カタログの作成</p> <p>今後拡大していくことが予想される農産物及び加工品商品を紹介する内容として作成し配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発行:平成23年6月、1,000部 配布先 道庁・総合振興局(振興局)、市町村、市町村社協、事業所、関係団体、社会福祉施設等 	A	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>商談成約件数も着実に伸びているとともに大手企業との販路も開拓しており、専用ホームページの活用及びコーディネーター等による取組は高く評価できる。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
	<p>2 授産製品販売会によるPR</p> <p>① 展示販売： 催事延べ82日(1,878千円)</p> <p>② 受注／カタログ販売： 36団体・個人(960千円)</p> <p>③ 委託販売： 6催事延べ 7日(140千円)</p> <p>④ 常設販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉の店「元気の輪」(岡山県)通年(47千円) ・ 赤れんがストア(株小六)H22年6月～H23年12月(410千円) ・ クスリのツルハH23年8月～H23年12月(146千円) <p>⑤ 合計 3, 581千円</p> <p>3 パネル展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほっかいどうナイスハートバザールinアリオ札幌(10/4～10/6) ・ 障がい者授産施設・共同作業所パネル展示会(8/29～8/31) <p>4 授産製品販売支援</p> <p>① セイコーマートポイントカード交換用景品への紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新商品提案:13事業所 31商品 採用:6事業所 6商品 <p>② 赤れんが売店への商品提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 採用: 3事業所 4商品 <p>5 「至福のお届け」-好事例発表、展示即売会参加【事業中止】</p> <p><事業の周知活動></p> <p>1 マスコミ等への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道新聞(5/19) 「商品開発事業紹介及び商品紹介記事」 ・ 北海道新聞(8/18) 「マッチング案件紹介記事(ツルハドラック)」 ・ 福祉関係者向け広報誌「明るい社会」(発行 道社協 年4回) 「北海道障がい者就労支援センター紹介特集」(10月発行) ・ 広報誌「明るい社会」に授産製品紹介コーナーを開設 (5月、8月、11月) 		

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
<p>■ 商談会 授産事業所の製品やサービスの新たな販路の開拓等を図るため、流通事業者等を対象とした商談会等の実施。</p> <p>【要求水準】 ★バイヤー等の参加がより多く見込まれるもの ★出店授産事業所及び商品の選定方法は客観的で合理的な理由がある</p>	<p>1 商談会等の実施(参加) 授産製品やサービスの新たな販路の開拓等を図るため、流通事業者やバイヤー等との商談を実施し、専門業者による商品評価及び一般商品として流通させるためのヒントを授産事業所にフィードバックした。</p> <p>① 北海道キラリ品卸隊商談会 主催 札幌市経済局 ・ とき:平成23年11月11日 ・ ところ:アクセスサッポロ ・ 参加事業所:1事業所 (参加申込は4事業所。事前振り分けがあり参加は1事業所)</p> <p>・ 内容 道内バイヤーに対し海産物加工食品の商談を実施した。</p> <p>・ 結果 商談相手の企業が運営する道内商品を販売するWebサイトにおいて、商品紹介をしていただくこととなった。</p> <p>② バイヤーズ食セレクション ・ 主 催:新日本スーパーマーケット協会 ・ とき:平成23年12月21日 ・ ところ:東京都 ・ 参加事業所:5事業所 ・ 内容 主催元団体の専属バイヤー数名による審査会会場に商品を事前送付し、商品内容の評価を受け、結果を一旦本センターで受け、申込事業者へフィードバックした。</p> <p>・ 結果 申込事業者に対する全般的な評価結果は、お土産商品としては適しているが、一般商品として流通ルートに載せるには商品としての魅力が欠けるという趣旨が多かった。</p>	<p>A</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている。</p> <p>道内外の商談会等に参加し、今後に繋がるものとして、高く評価できる。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
IV 市場調査・商品開発事業			
<p>魅力ある製品づくりと質の高いサービスの提供を行うため、市場調査及び商品開発に関する取組を実施</p> <p>■ ニーズ調査及び商品評価 企業等のニーズ把握と商品評価により、授産事業所の商品力の向上を図る。</p> <p>【要求水準】 ★ 授産事業所の意向等を踏まえるとともに、効果的かつ効果的な取組であり、成果品(データ)の有効活用が図られる</p>	<p>1 授産製品の評価・商品開発事業 一般購買者層へのサンプル配布・アンケートを行い、一般購買者層からの評価・ニーズを踏まえ、専門家(商業デザイナー、フードコーディネーター等)からの具体的な指導・助言等を行い、市場ニーズを踏まえた商品開発を行っている。</p> <p>① 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般モニター(サンプル配布、アンケート)による商品評価 <内容> WEBによる調査実施 サンプル数 50 シフォンケーキ、カレーパンの消費動向等について ・ 専門家(商業デザイナー、フードコーディネーター等)による商品評価 ・ 専門家派遣による商品の付加価値を高める技術指導、商品の改良・開発の助言 <p>② 対象商品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授産事業所で制作されている又は制作予定の日用品、消耗品、加工食品等 <p>③ 対象施設・商品 4施設(申込数:5施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO法人 アシストセンターちえりす ゆみな(千歳市) 商品改良:カレーパン ・ NPO法人ステップバイステップ ちゃちゃベリー豊平(札幌市) 商品改良:シフォンケーキ ・ NPO法人 ハピネスファクトリー ともに(釧路町) 商品開発:鮭の心臓を加工した商品 ・ 社会福祉法人白老宏友会 ポプリ(白老町) 商品改良:エント茶 	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
<p>■ 商品開発に関する研修 企業担当者等による商品開発に関する実践的研修により、授産事業所の商品力の向上を図る。</p> <p>【要求水準】 ★ 授産事業所ニーズを踏まえたテーマ等の設定 ★ 十分な知識を有する者を講師に選任</p>	<p>1 市場から学ぶ商品開発研修 ① と き:平成23年10月20日～21日 ② と ころ:胆振管内、日高管内 ③ 参加者:8名 ④ 内容</p> <p>〔1日目〕視察研修 視察先 ①ボルタ工房(室蘭市) ②合同会社農業たつか一む(牡警町) ③マザーズ(白老町)</p> <p>～研修のポイント～ 農産物の生産におけるポイントや商品としての活かし方等、消費者の心をつかむ商品販売のための方策を協議し、各授産事業所での商品の販売戦略を考える。</p> <p>〔2日目〕視察研修 ①ecoネット(新ひだか町静内) ②いずみ食堂(日高町) ③べてるの家(浦河町)</p> <p>2 企業から学ぶ就労支援研修 福祉的就労から一般就労への道しるべを示すため、障がい者雇用における就労に至るまでの準備、支援、フォロー体制について学ぶ。 ① と き:平成24年2月22日(水) 実施予定</p>	<p>C</p>	<p>※計画に対し、やや不十分な内容である。</p> <p>研修テーマに工夫が見られるが、参加者は8名と低調である。 参加を促すためには、研修会の形態(宿泊型・日帰型等)や実施時期について、施設の業務日程等に配慮するとともに、周知の方法についても工夫が必要である。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績	評価	意見等
V 企業認証制度及びアクション2010普及・啓発事業			
<p>企業等による障がい者就労支援に対する理解と取組を促進するため、企業認証制度及びアクション2010の普及・啓発を行う。</p> <p>■ 企業認証制度及びアクション2010 障がい者就労支援企業認証制度及び北海道障がい者就労支援プログラム「アクション2010」の登録件数拡大に向け、登録申請受付及び審査並びに普及・啓発活動を行う。</p> <p>【要求水準】 ★ 申請受付・審査事務の適切・迅速な処理 ★ 認証・登録企業の公表内容・手段等が効果的 ★ 平成23年度末までに認証企業数100件、アクション登録2,000件の目標達成に向けた効果的な制度のPR</p>	<p>1 申請受付件数 〔アクション2011〕 ・ 企業サポーター:12件 ・ 市町村サポーター:0件</p> <p>2 普及・啓発活動 ① パンフレットの作成・配布 ② 発行:平成22年8月、10月、1月 6,800部 ③ 配布先 市町村、市町村社協、関係団体、一般企業、授産事業所 ④ 配布方法 ・ ダイレクトメール ・ 販路開拓推進事業地域スタッフにより配布</p> <p>3 認証・登録企業の公表 ・ 認証・登録企業のホームページでの紹介</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている。</p> <p>受付件数が十分とは言えないが、アクションについては、企業にとって特段のメリットがなく、登録を拡大するには、難しい面もある。</p>